

第247回鳳雛講座 令和6年7月17日(水)

7月17日(水)に今年度4回目の鳳雛講座を行いました。講師は、かいごの学校大館ケアワーカースクール学校長の川口未沙希(かわぐちみさき)さんが務めてくださいました。川口さんは終始笑顔で、一中生が聞きやすいように立ちながら明るく元気に仕事について、生き方について語ってくださいました。

○講話の内容

・ケアワーカースクール・介護の仕事…

介護に関わるための資格取得、介護の知識や技術を身に付ける学校で、介護職員初任者研修や介護福祉士実務者研修、介護に興味のある人を集めて講師をよんで研修会を行い、人材育成に取り組んでいる。現在、秋田県は日本国内で高齢化率第1位となっており、介護職員の数が不足している。「介護の仕事」には、体力的な問題や給料、夜勤などネガティブなイメージが付きやすいが、その多くは改善されている。介護の仕事をしていて良かったことは、「就業時間が短く感じる」「生活の知恵を身に付けられる」、特に「家族の介護に役立つ」ことが挙げられる。

・仕事の中で心がけていること

分からないことをそのままにせず、先輩にすぐ相談するようにしている。また、時間が経つにつれて利用者さんとの距離感がどんどん近くなってくるが、言葉遣い・敬語を使うことを心がけている。相手の「されて嬉しいこと」「好きなこと」を知っていることが大事。特に、家族介護に必要なことは家族の気持ちを日頃から観察していくことが大切。介護士として日頃から気を付けていることは、常に何かあるかもしれないという気持ちをもって臨むこと。昨日元気だったからといって、今日も同じというわけではない。日々の変化に気付けるように細かに観察するようにしている。相手の話に傾聴する、信頼関係を築くことでコミュニケーションがどんどんできるようになる。

○結びに

これからの進路が決まっていなくても、資格をもっていて損はない。大館市は助成制度ができています。家族のことで心配なことがあればいつでも相談に来てほしい。今日という一日をきっかけに、介護についてさらに興味をもってもらえると嬉しい。

○生徒の感想から

- ・介護は社会になくてはならない存在ということを実感した。介護職員が不足していることに驚いたが、改めて自分の家族を大切にしたいと思った。
- ・介護はネガティブなイメージがあったけど、自分にあったものを選んだり、逆にたくさんの方のことを利用者さんから学んだりする姿勢が素晴らしいと思った。
- ・以前から介護という仕事に興味があったが、今日の講話で改めて介護の重要性について考えることができた。自分の考え次第でキャリアを広げることに魅力を感じた。自分も働くようになったら、プロ意識をもって臨みたい。



